

「アフタースクール」活動って？



学童保育のように子どもを預かる機能をもつうえ、多様なプログラムを準備した「アフタースクール」が注目を集めている。東京都中野区の私立新渡戸文化小学校(竹越俊五郎校長、児童数252人)で5月に始まったNPOとの連携によるアフタースクールの取り組みをレポートする。【小川節子/写真も】

体育館では、1年生から6年生までの約50人が、腰につけた旗を取り合う鬼ごっこ「フラッグフットボール」に歓声を上げて走り回っている。写真。美術室では、造形作家によ

学校とNPO連携 ■学童保育+習い事

る折紙教室が開かれ、

「狂言の世界」「模型紙飛行機」などユニークな教室も催されていた。

この日は父母会総会が

授業が終わる午後2時過ぎから、子どもたちは

平岩国泰さんは放課後、子どもたちが安心して遊べる居場所が少なくなっ

た。米国では90年代から放課後改革が行われ、市民団体や行政、企業などが協力して豊かな

*

実施。参加した子どもは1万5000人に及ぶ。同NPOの代表理事、

術など五つの習い事をしている同小1年の男児の父親は「午後7時まで学校に安心して預けられ、習い事もできるので子どもは大喜びです。プログラムの内容も普通なら体験しにくいものがあり、とてもおもしろい」と話

る。同7時までの間、ピアノ、テニス、陶芸、料理など10種類の習い事や「日本文化」「世の中を知ること」などの本格実施を決めた。重視したのは、共働きの父母が直面する「小学校1年生の壁」。一般的な学童保育が保育園に比べ、預かり時間が短いことなどから親は困惑するが、竹越校長は「アフタースクールでは預かり機能に加え、一人一人の子どもの個性を伸ばし、将来につながるようなプログラムを提供したい。小学校1年生の壁を乗り越えるお手伝いをしたい」と話す。

*

平岩さんは「僕たちの役割は学校と市民、地域、企業、職人などをマッチングすることだと思っています。将来的には多くの学校でも取り入れてもらい、地域全体で子どもを見守り、大人の仕事を伝える役割を担ってほしい」と話す。

を自由に選んで参加、費用は1〜2年生のレギュラー(週5回)利用で月3万〜4万円程度。プログラムを企画・運営しているのはNPO法人「放課後NPOアフタースクール」。05年から世田谷、目黒区などの小学校で、料理、音楽、スポーツなどに精通したプロを講師に招き、140種類以上のプログラムを

アフター スクールで テニス、美